

## IV. 大規模畑作関係

### 1. タマネギハーベスター

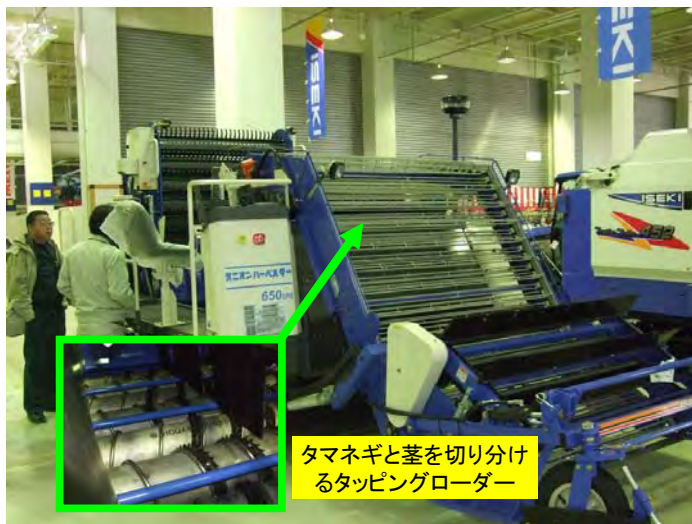
- ①タマネギハーベスターでタマネギの拾い上げ作業中、ローラーに貯まった草を取り除こうとして巻き込まれた（平成21年 8月17時頃 タマネギ畑、男・45歳）

タマネギハーベスターの運転席に乗り、タマネギの拾い上げ作業を行っているときに、互いに回転する2本1組のローラーでタマネギの茎を挟んで取り除くタッピングローラーにスギナが詰まり、タマネギ搬送の邪魔になるので右手で取ろうとして巻き込まれた。

すぐに救急車で病院に搬送、右手薬指の第一関節から先を欠損、4ヵ月通院

タッピングローラーの全面をカバーで覆っていない。雑草が詰まりやすいので、しばしばカバーを開く必要が生じるが、容易に取り外しできる構造になっていない。開口部に警告標識も設けられていない。なお、別型式の機械では、全面をカバーで覆っているものも見らる。

普段は木の棒でローラー上の雑草を突いて、ローラー下方に排出させていたが、その時だけはなぜか手が出てしまった。革手袋もしていた。雑草もあまりにたまれば、エンジンを切って取り除くが、こまめに突けば出て行くので、作業しながらやってしまう。ハーベスターを操作しながら、タマネギを詰めたコンテナの搬送の様子や作業の段取りなどを考えながら作業を行っていた。



- ②タマネギハーベスターから降車時、クラッチペダルに足を取られ、踵裂傷

（平成23年 9月14時半頃、タマネギ畑、男・53歳）

タマネギハーベスターでの堀取り作業を終え、タマネギを拾い集めるピッカーに乗り換えようと運転席から前を向いて降りる際、右足かかとをクラッチペダル下端に引っかかった状態で降りて、右足裂傷。2針縫合、安静にと言われたが戻ってすぐに作業を続けた



ため雑菌が入り、1ヵ月通院。

クラッチペダルにゴムの被覆はなく、松葉鉄板を切り出したものであった。また、運転席は狭く、足がペダルに接触しやすい構造。特に慌てていた訳ではないが、前を向いて降りてしまった。ピッカに乗り換えることに気持ちが先走りしたのかもしれないとのこと。

## 2. ポテトプランター

### ポテトプランターの搬送コンベアーのカバーで小指先切断

(平成23年 5月 8時半頃、ジャガイモ畑、女・49歳)

傾斜した圃場でジャガイモの種芋をポテトプランターで植付け作業中、フィーダーボックスから種芋が続けざまに出てきて、そのうちのひとつが進行方向左へ転がったため、被害者がそれを捕ろうとして左手を伸ばしたところ、搬送コンベアーの左折り返し点でカバーとの隙間に左手小指先端を挟み、先端欠損。

作業を中断して病院にて診察し施術。その後、2週間通院。

現在、欠けた肉は盛り返してきたが、指の先端に物が触れると痛みが走る。

このポテトプランターは、トラクター直装式で作業機側に作業者2名が乗って、フィーダーボックス下部の窓から手を入れて種芋を取り出し、供給コンベアーに種芋を落としてゆく方式である。種芋搬送コンベアーのヒレが鉄板であり、物が挟まったときもヒレが逃げにくい構造であった。作業者が機械にペースを合わせなくてはならない。そもそもトラクター直装式作業機に作業者を乗せるのは不適切と思われる。傾斜地での作業であり、種芋も2Sの半分くらいの小ささであったことから、供給コンベアーの外へ転がり出やすい状況であった。

現地はまとまった雨が降ると2、3日は圃場に入れなくなる。事故当時も前日に降雨があった上、その後の予報も雨であったため、事故当日にできるだけ作業を進めなくてはならず、気が急いでいた。また、種芋を圃場に落とすとトラクターを運転している夫が、芋を拾うために作業を中断させてしまうので、できるだけ落とさないように気を張り詰めていた。

